

2018年度 京都市立芸術大学大学院美術研究科 修士課程入学試験（美術史）

- I. 以下に図版を挙げた①～④の作品のうち2点を選び、可能であれば作者名や制作された時代も明記したうえで、美術史上の位置づけ、ならびに表現上、造形上の特徴について論述しなさい。

(各15点、30点)

(実際の図版は、著作権法上の関係により掲載していません。)

①

ジャック・ルイ・ダヴィッド
《ホラティウス兄弟の誓い》
パリ、ルーヴル美術館

②

アニョロ・ブロンズイーノ
《愛の寓意（アレゴリー）》
ロンドン、ナショナル・ギャラリー

③

ジョット
《ラザロの蘇生》
パドヴァ、スクロヴェーニ礼拝堂フレスコ画

④

ヨアヒム・パティニール
《聖ヒエロニムスのいる風景》
パリ、ルーヴル美術館

II. 次に挙げる美術史上の様式・時代区分から2つを選び、作品名や作家名等を含めつつ、その特徴について解説を書きなさい。(各10点、20点)

- A. ロマネスク B. ロココ C. 古代ローマ美術 D. ロマン主義
E. 盛期ルネサンス F. バロック

Ⅲ. 次の文章を読み、下の設問に答えなさい。

1950年代前半は、アメリカの(①)やヨーロッパの(②)など、造形的側面や形式主義的問題に重心を置いた(③)が主流となっていた。それに対する反動のように、50年代後半には現実世界との接触を回復しようと試みる美術が登場してくる。アメリカではロバート・ラウシェンバーグやジャスパー・ジョーンズらの「(④)」に始まり、アンディ・ウォーホル、ロイ・リキテンスタイン、クレス・オルデンバーグらの「(⑤)」が続いた。フランスではイヴ・クラインやセザール、アルマンに代表される「(⑥)」が展開する。

アーティストたちは美術の領域と現実世界の領域を開き、日常生活にあふれる「もの」を自らの作品に取り込んだり、あるいは雑誌や新聞などのマス・メディアに氾濫するイメージを引用し、広告を素材とした作品を制作した。西ドイツでは、アメリカやフランスでの動向から影響を受けた美術家たちが自らの活動を「(⑦)」と名付けている。(⑧)体制における現実をモチーフとすること、かつそれを(⑨)態度でもって行うという姿勢が、その命名には込められていた。同じ頃、国境を越えた芸術運動である「(⑩)」が一つの大きな国際的運動として展開するが、それは美術や音楽といった芸術の諸ジャンルの境界を越え、さらに芸術と日常との境界をも越えようとする試みであった。

『西洋美術の歴史 8 20世紀』井口壽乃、田中正之、村上博哉
中央公論新社 2017年 pp.282-283

1. 上の文章の()の部分以下の字句で埋めなさい。番号とアルファベットで答えなさい。

a. ネオ・ダダ b. フルクサス c. ヌーヴォー・レアリズム (新しい現実主義) d. 抽象表現主義 e. ポップ・アート f. 抽象芸術 g. 具象芸術 h. アンフォルメル i. 社会主義リアリズム j. 資本主義リアリズム k. 社会主義 l. 資本主義 m. 批判的 n. 迎合的

(各2点、20点)

2. 上の文章で言う以下の取り組みから一つを選び、具体例を挙げつつその特質や意義について説明しなさい(選んだ記号と共に解答すること)。

ア 日常生活にあふれる「もの」を自らの作品に取り込んだ作品

イ 雑誌や新聞などのマス・メディアに氾濫するイメージを引用し、広告を素材とした作品

ウ 美術や音楽といった芸術の諸ジャンルの境界を越え、さらに芸術と日常との境界をも越えようとする試み

(15点)

Ⅳ. 1960年代後半～70年代前半にかけて確立・展開した、「貧しい芸術」を意味するイタリアの芸術運動は何ですか。名前を答え、その内容について具体例を挙げつつ説明しなさい。

(15点)

訂正

Ⅲの文書冒頭

1950年代前半は（誤）



1950年代前半には（正）